

第1回北斗市総合計画策定審議会しごとづくり部会 議事概要

日時

平成29年5月15日（月） 13時30分～15時15分

場所

北斗市役所 1階 大会議室

出席者

○委員10名（12名中）

| 委員氏名 | 出欠 |
|--------|----|
| 宮崎 高志 | 出席 |
| 佐々木 博史 | 出席 |
| 中川 平八郎 | 欠席 |
| 濱谷 重美 | 欠席 |

| 委員氏名 | 出欠 |
|--------|----|
| 向中野 貴夫 | 出席 |
| 松田 貴裕 | 出席 |
| 小泉 志津子 | 出席 |
| 安井 重哉 | 出席 |

| 委員氏名 | 出欠 |
|-------|----|
| 山下 勇吉 | 出席 |
| 若栗 昭逸 | 出席 |
| 木村 圭介 | 出席 |
| 岩井 勇雄 | 出席 |

○市関係者 14名

副市長、総務部長、市民部長、民生部長、経済部長、建設部長、総合分庁舎長、教育次長、企画課長、財政課長、水産商工労働課長、水産担当課長、観光課長、農林課長

○事務局 4名

企画課地方創生担当課長、企画課職員3名

次第

1 開会（進行：事務局）

2 議題

議案第1号 部会長及び副部会長の選任について

部会長に安井委員、副部会長に木村委員を選任

報告第1号 策定スケジュールについて

（資料1）

資料1について事務局より説明

【質疑・意見】

異議なし

資料2について事務局より説明

【質疑・意見】

（委員）

シンボルテーマ設定の基本的な考え方にインパクトとあるが、インパクトを重視すると、見る側が疑問を持ったり、親しみやすさと背反することもあるのでは。

（地方創生担当課長）

北斗市は、誕生して10年でまだ知名度が低いことから、シンボルテーマは広くいろんな場面で市外の方の目に触れ、知名度アップやPRに繋がるという側面的な効果を期待したものであり、広報など市民から募集する際は、考慮し説明しながら募集したい。

資料3について事務局より説明

【質疑・意見】

○基本目標1 新幹線を活かした元気で魅力あるまちづくり

□基本計画1 企業誘致の推進と雇用の拡大

（委員）

大型スーパーなど新幹線関係で場所を探していると聞いているが、大々的PRして誘致するのか、地元の既存の小さなスーパーとの兼ね合い、その辺はどうなのか。

（水産商工労働課長）

雇用の拡大と考えれば道外からの進出が理想であるが、市内業者でも新函館北斗駅前に来ることは新たな商業圏となり雇用の増加につながると考えており、情報があれば企業等と条件面等で交渉していきたいと考えている。

（委員）

企業誘致に関連するが、どれだけの人を取り込むかという想定はどのようにしたのか。
また、今あるところに人が集まらないというのは、メリットだけでなく、魅力のあるものがなければ行かないと思うので、やはり地元、近隣の方たちが常に足を運ぶようなものを考えていただければと思う。

(水産商工労働課長)

企業誘致だけでなく、観光面、交流人口の増加につなげていかなければならないということで、今後、市内の業者、商店会等を交えながら、こういった取り組みができるのかということも含めて検討していきたい。

(委員)

企業誘致について、どのような方法でPRしていくのか。

(水産商工労働課長)

企業が参加する研修会やセミナーなどに参加して市の支援制度や駅前地区の商業地等の情報を提供しながら企業誘致を推進していく。

また、東京北斗会や市内金融機関、北海道等からの情報をもとに企業等に接触していく。

(委員)

新たな産業の創出はどのように考えているのか。

(水産商工労働課長)

新幹線開業に向けて観光振興に力を入れてきたところであり、飲食店、宿泊業を含めて観光産業を本市における新たな産業として位置づけて、力を入れていきたいと考えている。

□基本計画2 農林業の振興

(委員)

農業経営の安定化で、6次産業の推進となっているが、失敗例もあると聞いているため、市として推進していくべきことなのか。

(農林課長)

市内には成功例もあり、市が直接取り組むのではなく、農業者が取り組む場合に支援する役割と考えている。

□基本計画3 漁業の振興

(委員)

I T活用の取り組みについても考えていくべきでは。

(水産担当課長)

つくり育てる漁業を進める際に、ITの活用もひとつの方法と思うので、本市の漁業形態等を考慮しながら、調査・研究をしていきたいと考えている。

□基本計画5 観光の振興

(委員)

観光客目線を捉えて、北斗市の良さを最大限に発揮できるような施策を行うと、より発展的になるのでは。

(観光課長)

観光産業は多分野に及ぶ裾野の広い産業であり観光客のニーズも多様であることと、今後増加が見込まれるインバウンドへの対応なども含め、観光客目線は重要と考えている。

(委員)

季節により観光客数に増減があると思うが、閑散期対策の考えは。

(観光課長)

冬季の観光客の落ち込みは全道共通の課題であるため、体験型や滞在型、通年型の観光確立を目指すと共に、近隣市町との連携も重要だと考えている。

3 その他

4 閉会